

## 2018年5月実績概要(メモ)

(2018. 6. 21)

誘導品を含めた定修規模の拡大により一部の誘導品の生産は大幅に減少。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 499,300トン

前月比 + 3.2% (+15,400トン)

前年同月比 ▲ 6.8% (▲36,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	▲ 1.7%	▲ 7.6%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 1.6%	+ 0.8%
生産増減率	+ 3.2%	▲ 6.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.9%→ 当月97.3%← 前年同月96.5%

定修プラント：前月2社2プラント→ 当月2社2プラント← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加があったが、定修規模の拡大からLD、PP、EO、EG、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの9品目がマイナス。HD、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、BRなどの8品目は主に定修規模差からプラスとなった。

前年比では、定修規模差からLD、PP、EO、EG、トルエン、キシレンなどの11品目がマイナス。HD、SM、AN、SBR、BRなどの6品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、稼働日数は増加したが、定修系列数が増加したLD、PPとともにPSを加えた3樹脂でマイナスとなった。HDは日数の増加と定修規模の縮小からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、PP、PSでマイナス。HDは定修規模の差からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、連休に伴う営業日数の差もあり、LD、PPではフィルム分野等の出荷減少からマイナスとなった。PSは前月に一時的な出荷の落ち込みが見られたが、当月はこれを若干上回りプラスとなった。

前年比では、LD、PSは前年の出荷がやや低調であったこともあり、比較上、前年を上回ることとなった。PPは主用途の射出成形分野をはじめ繊維関係での出荷減少が影響しマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出は定修に伴う供給量の減少から国内向けへの出荷を中心としており、引き続き低位となっている。前月比では、前月に大きく低迷したLDは当月は大幅なプラスとなったが、HD、PP、PSではマイナスとなった。

前年比では、ポリオレフィン3樹脂でマイナス、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HDで増加、PP、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPで低下、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、定修期間中の取り崩しもあるが、LD、PSは依然として高め、HD、PPはほぼ適正レベルに近づきつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LD	+ 8,000	3.7	3.5
HD	+ 1,600	3.3	3.0
PP	▲ 17,300	3.1	3.0
PS	▲ 200	1.6	1.6

以上